

## 知っていましたか？ 陸奥湾でみつけた世界最北端に生育する海草

磯根資源部 部長 桐原 慎二

ウミヒルモをご存じですか？アフリカからインドを経てオーストラリア、インドネシア、フィリピン、ベトナムにかけての主に熱帯から亜熱帯地方に生育する、かわいらしい小判型の緑の葉をもつ海草（オモダカ目トチカガミ科の海産種子植物）です。日本でも沖縄、南西諸島、伊豆半島などの暖かい海域によくみられますが、日本海沿岸では能登半島や富山湾で観察されており、これまでは佐渡島の南部沿岸が世界の北限とされてきました。

しかし、増養殖研究所が、藻場・水産資源マップ作成事業として陸奥湾全域の藻場を調べた結果、蓬田村北部沖合1.2km～1.6kmにあたる水深10m前後の海底に、ウミヒルモの生育を観察しました。従って、これまでの世界記録を緯度で3度、300km以上も北側に記録を塗り替えたこととなります。これは、ウミヒルモを含むウミヒルモ属植物全体の北限でもあるので、日本藻類学会誌に報告したところです。これまた地球温暖化の影響か、と思いたくなるのですが、調べてみると昭和57年の当所で行ったホタテガイ資源調査で、およそ同じ場所にウミヒルモ群落をみつけていました。

一方、ウミヒルモは、藻場・水産資源マップを含む

これまでの陸奥湾での調査では、蓬田村以外からみつかっていないことも分かりました。ではなぜ、佐渡島より南の暖かい海に生える海草が、20年以上も前から蓬田の北側地先にだけ生え続けてきたのでしょうか？渡り鳥が運んできたのか、はたまた、そこにだけ温泉が湧いて暖かいのか、考えてみてもすぐには答えがみつかりそうもありませんが、陸奥湾の「世界一」がひとつ増えたことは、間違いなさそうです。

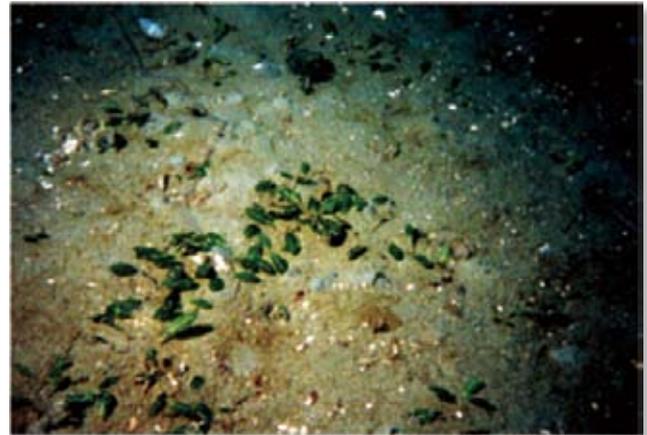


写真 陸奥湾蓬田地先に生育するウミヒルモ